様式３

令和　５　年度　　学校自己評価表　　（計画段階・実施段階）

福岡県立筑紫高等学校

自　己　評　価			
学　校　運　営　計　画（4月）			評価（総合）
学　校　運　営　方　針	本校の校訓である「創造」「敬愛」「剛健」と校是である「師弟同行」（率先垂範）の精神のもと、生徒と教師がともに汗を流し、愛情と信頼に満ちた教育活動を日々展開する。全教育活動をとおして、高い次元での文武両道の実現と自立心とチャレンジ精神に溢れた逞しい生徒の育成を図るとともに、国家・社会の発展に貢献するための資質を涵養する。		A
昨年度の成果と課題	年 度 重 点 目 標	具　体　的　目　標	
昨年度は、重点目標として １授業の改善による生徒の学力向上 ２キャリア教育の充実 ３自立心やチャレンジ精神に溢れた逞しい生徒の育成 ４自ら課題を見つけ、周囲と協働して答えを導き出す創造的英知の育成 ５広報活動と50周年記念行事をとおした学校の活性化 を掲げ、日々の教育活動に邁進した。 その結果、ＩＣＴの活用等による授業改善、プロジェクトＣ・Ｇ・Ｖの推進、学校行事をとおした社会性や人間力の育成、人権教育や広報活動の充実、生徒の高い学校満足度などの成果を収めることができた。しかし、高校入試の志願状況においては大きな課題を残した。 令和５年度は、創立以来50年の成果を踏まえ、新たな半世紀に向け、さらなる学校の活性化に努める。具体的には、主体性を育む学習指導、キャリア教育の充実による的確な進路指導、心身ともに逞しい生徒の育成、体験的活動をとおして豊かな人間性の涵養、広報活動の充実による本校志願状況の改善を目指す。	生徒の主体性を育む教育活動を充実させるために弛まない授業改善を推進し、生徒の学習習慣の定着を図る。	・観点別評価の推進と改善を重ねるとともに、「主体的・対話的で深い学び」のための授業研究により、授業改善を図る。 ・一人一台端末の環境を最大限に生かし、「個別最適な学び」を推進し、生徒の主体性を育み、学力の定着・向上を図る。 ・生徒の読書活動を推進し、生徒の思考力・判断力・表現力を育成する図書館利用を促進する。 ・異なる文化や価値観を理解するための感性や教養を育て、英語活用能力を高めるグローバル教育を推進する。	
	キャリア教育の充実により、高い「志」と向上心に溢れた生徒を育成する。	・「大学入試改革」を見据えた体系的な指導の充実により、「自走」できる生徒を育成し、進路実績を向上させる。 ・「総合的な探究の時間」における「プロジェクトＣ・Ｇ・Ｖ」を発展的に推進し、キャリア教育の充実を図る。 ・校外での体験的活動への積極的な参加を促し、生徒の「志」を育てる。 ・Classiの効果的な活用方法を研究し、生徒のポートフォリオを充実させ進路意識の向上を図る。	
	自尊感情や規範意識を高め、心身ともに健全で自立心やチャレンジ精神をもった逞しい生徒を育成する。	・学習活動と部活動・学校行事を両立させるとともに、生徒の規範意識を高め、自立心やチャレンジ精神に溢れた逞しい生徒を育成する。 ・アンケート、面談等の実施により、いじめの未然防止と早期解決を図り、生徒にとって安全安心な環境を提供する。 ・特別支援教育に関する研修を充実し、生徒一人ひとりの個性を尊重し、可能性を最大限に引き出す教育を実現する。	
	多様な価値観を尊重し、自ら課題を見つけ、周囲と協働して答えを導き出す創造的英知やコミュニケーション能力を育成する。	・学校行事や様々な体験的活動をとおして、生徒の主体性や協調性などを育み、生徒を社会的成長を促す。 ・「総合的な探究の時間」や特別活動において、協働的活動の実践によりコミュニケーション能力を高めるとともに自己有用感を育成する。	
	満足度の高い魅力的な学校づくりを進め、保護者や関係機関と連携し広報活動の充実を図る。	・中学校や塾への訪問、学校での説明会と、中学生体験入学や中学生・保護者説明会の更なる充実を図る。 ・学校ホームページを積極的に更新し、新しい媒体の活用を工夫するなど情報の発信に努め、広報活動を活性化する。 ・ＰＴＡや同窓会、教育振興会と連携を深め、教育内容の充実と環境の整備に努める。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（３月）			次年度への主な課題
教 務 課	学習内容の定着のため、平日２時間以上の家庭学習を確保する。	学習を生活の中心に位置づけた生活を送ることを呼びかけるとともに、Classi等を用いて、生徒一人一人の学習状況を把握し、不十分な生徒に対して、アドバイスを行い、改善させる。	A	A	A	学習を生活の中心に位置づけた生活を送ることを呼びかけ、しっかりと自走できる生徒を育成していく。そのために、顧問への部活動別成績の配付、下校時間の厳守等、部活動との連携を深め、家庭学習開始の時間を固定させたい。さらに授業改善を推進していく。
		部活動顧問に部員の成績を把握してもらい、部活動と学習の両立ができていない生徒に対してアドバイスを行い、改善させる。下校時間を守らせ、学習開始の時間を固定させる。	A			
	新学習指導要領に基づいて、授業改善および観点別評価を推進する。	昨年度実施した観点別評価について分析・検討し、改善する。学習の計画や評価の方針を事前に示して「見通し」を持たせて自覚的な学びを促す。	A	A		次年度、全学年で新学習指導要領に基づく授業が展開されることになり、観点別評価の見直しを行い、指導と評価の一体化をさらに意識して「主体的・対話的で深い学び」を実現する。一人一台端末を活用し、「個別最適な学び」を推進していく。
		指導と評価の一体化を常に意識して、生徒の学習状況および授業の改善を行うとともに、一人一台端末および電子黒板等の活用を図り、「主体的・対話的で深い学び」を実現する。	A			
	通常業務を確実に実行し、新たな取り組みへ積極的にチャレンジする。	時間割の作成・変更、定期考査の企画・実施、成績管理および教材教具の準備等の業務を確実に行い、学校運営を支える。	A	A		時間割の作成・変更、定期考査の企画・実施、成績管理および教材教具の準備等の業務を確実に行い、生徒に最適な学習環境を提供する。 「統合型校務支援システム」の効率的・効果的な運用を行い、働き方改革を推進する。
		情報管理課と連携のもと、「統合型校務支援システム」に関してこれまで得られたノウハウを活かし、効率的でミスのない運用を行う。	A			

総 務 課	行事等の企画や準備を綿密に行い、コロナウィルス感染拡大防止に気を配りつつも、通常の状態を取り戻し、円滑な業務の遂行を目指す。	式典の準備において、業務内容の明確化や分担の均等化を図り、式典等が遺漏なく行われるよう留意し、生徒の筑紫高校への帰属意識を高める。	A	B	A	式典の準備にさらに早めに着手すると共に、事後の反省やアンケートも含めて計画し、その反省を次回に生かす。生徒のスクールアイデンティティがさらに高まり、参加する姿勢に表れるよう企画を工夫する。 新職員室は働きやすく安全な場になるよう配慮する。
		改修事業に伴う場所移動の際に、確認と準備を確実に行い、先生方が気持ちよく仕事をしてもらえるような環境を用意する。	B			
	保護者や外部団体との連携を強化し、地域を含めた周囲から愛され支援される学校を目指し、51年目を迎える学校の活性化に寄与する。	ＰＴＡ活動を積極的にバックアップするとともに、教育振興会、同窓会とのつながりを密にして、51年目を迎える学校の活性化に寄与できるようにする。	A	A		会議を精選して負担軽減を図りつつ、各行事における保護者との連絡・連携は密に行っていく。学校での生徒の様子を見てもらいながら、ＰＴＡ等の方にも生き生きと活動に参加してもらえるように、案内を早めにに行い、打ち合わせを綿密に行う。
		少しでも保護者に生徒達の様子を見てもらい、学校行事等に協力してもらえるように工夫し、その事績をしっかり残す。	A			
広 報 課	積極的な広報を強化し、体験入学者を増やし、受験倍率1.3倍を目指す。	第5学区内の中学校、学習塾への定期的な訪問を実施し、キーパーソンとの繋がりを密にして、筑紫高校の魅力を伝えることで、受験生への間接的な魅力の発信を行っていく。	A	A	A	学校説明会や体験入学に関する広報をしっかり行うことで、中学生、保護者の方の参加者数増加を目指す。特に学校案内パンフレット、学校ポスター、学校紹介PV、部活動紹介動画などの充実を図り、本校の魅力を発信していく。
		中学生体験入学や各種学校説明会をオンラインや対面で柔軟に実施することで参加しやすくし、多くの中学生や保護者に本校の魅力を知ってもらう。	A			
	学校ホームページやSNS、仮想空間（メタバース）を用いた広報を充実させることで、中学生や保護者に向けた筑紫高校の魅力をリアルタイムで伝える。	新たな取り組みであるメタバースの充実を図り、本校の魅力をいつでも閲覧できるようにする。	B	A		ＳＮＳの活用については継続していく。ホームページについては更新されていないページなどを更新、ホームページの見やすさ改善などを行っていく。ホームページは毎週更新を目指す。メタバースについては、活用方法を検討する。
		SNS（Instagram・Facebook)などを活用し、本校生徒の日常や学校行事、部活動などの情報を積極的に発信する。	A			
生徒指導課	基本的生活習慣の確立と授業規律の徹底を図る。 生徒個々に対するきめ細やかな指導・助言を行うと共に生徒の自主性を引き出す。	学校教育活動全般を通じて礼節を重んじる指導を展開する。特に、授業規律（開始時、終了時の挨拶・時間厳守・集中力の持続等）の中から五分前行動（時間厳守）・大きな声で挨拶をすることに重点を置き指導の徹底を図る。また、問題行動の未然防止に努める。	A	A	A	主体的な生活指導として、生徒の意見を反映できるよう意見交流の場を設定し、生徒会を中心に活性化させていきたい。その中で筑紫の基本（時間厳守や挨拶等）に関しては全職員も意識を高めて指導にあたり、学校全体で取り組んでいく。
		生徒が自省する機会として、生徒会を中心とした自主的な生活指導（感染症対策を含む）に力を入れる。職員も生徒の日々の実態を細かく把握し、機会を逃さず、個々に応じた指導・助言を行う。	B			
	学校行事等における実行委員数を増やすことでリーダーの育成を図り、学校全体の活性化を図ると共に帰属感を高める。 生徒の実態を把握し、いじめの無い学校を作る。	生徒会や部活動生を中心としたリーダー育成に重点を置き、各行事の実行委員を増やす。生徒会との定例会を行い、できるだけ生徒の活躍の場を増やし、連帯感や帰属意識を高める。	A	A		生徒会及び部活動生に対して、学校の中心として牽引していく意識をさらに高めていきたい。いじめ等に関しては引き続きアンケートの活用や日々の生徒観察をとおして早期対応に努める。
		いじめや不登校の予防措置として、全職員による日々の生徒観察や月に１回のアンケート調査を行い、生徒の実態把握に務める。また、月に１回のいじめ防止対策委員会を効果的に機能させ、初期対応に重点を置いた対策を行う。	A			
	感染症対策を徹底しつつ、生徒会活動及び部活動の適正な運営及び活動によって道徳教育を行う。 登校マナーを含む交通マナー教育を徹底し、地域に愛される生徒を育成する。	部活動生に全体の模範となるよう意識を高めさせることで部活動の活性化を図る。また、文武両道を図るため、休日１日以上または平日２日以上の休養日を設けて部活動生の学習時間を確保し、有効に活用できるように各部と連携する。	A	A		教務部が作成した部活動ごとの成績一覧を使用し、部員の学習状況の実態把握と学習に対する意識付けを行い、文武両道（二刀流）の意識を高めさせたい。交通マナーについては、各講習会を継続して行い、安全意識を高める。
		登下校指導、自転車安全点検等の指導を職員のみならず、生徒会（生徒）と共に行うことによって、事故や苦情の件数を前年度の５割減を目指す。また、全学年で実施できなかった各講習会等を工夫して行い、知識やルール・マナーについて指導徹底を家庭と連携して行っていく。	B			
保健課	健康・安全・環境に対する意識の向上を図り、生徒の健全な心身育成を目指す。	感染症対策の基本（手洗いや体調管理、換気等）の指導を徹底する。各種検診等の結果通知や啓発活動、熱中症対策指導、防災避難訓練等を通して、生徒自身の健康や安全に対する意識を高め、リスクマネジメントを強化する。	A	A	A	感染症対策、薬物乱用防止教育、熱中症対策、防災訓練等を通して、生徒自身の自己防衛、リスクマネジメントの意識は高めることができた。来年も継続し、生徒の意識を高める。校内ボランティア清掃活動を年間3回実施するなど、校内の環境美化に努める。
		清掃活動を充実させる。ごみ減量化の働きかけや清掃点検等を生徒美化委員会の活動の一環として継続的に行い、生徒の環境美化に対する意識向上を図る。	B			
	多様化する生徒の心身の課題解決に向けたよりよい支援を目指す。	１・２学期に「教育相談週間」を設け、担任が生徒理解を深める一助とする。学年ごとに、必要に応じて拡大学年会を実施して、全職員が共通認識に基づいて生徒の支援ができる体制を作る。	A	A		保健室に来室する生徒が1.5倍に増加し、配慮を要する生徒も増加傾向にあるため、分掌・学年間における情報共有をし、よりよい支援計画に繋げる。スクールカウンセリングの活用を継続し、生徒・保護者・職員に対する支援を充実させる。
		教育相談委員会、スクールカウンセリング（月１～２回程度）等を活用して専門機関と連携を深め、課題解決に向けたよりよい策を検討し、生徒・保護者・関係職員に対する支援の充実を図る。	A			
進路指導課	各学年と連携して積極的な情報発信や大学説明会を行うことで、生徒の進路目標を確立させる。	「進路通信」を充実させ、生徒や保護者の大学進学への意欲を高める。	B	B	B	国公立大学を主とした大学説明会は各学年行うことができた。また、前期は進路通信の発行を定期的に行うことができた。そして、早期より「キャリア検討会」を実施し、総合型選抜・学校推薦型選抜の生徒の指導を充実させていく。
		国公立大学を主とした大学説明会を積極的に行い、生徒により高い進路目標を設定させる。	A			
	生徒の希望進路実現のために、各学年と連携して課外授業を充実させる。	課外授業の各講座の編成・内容は、学年と教科の要望を調整しつつ、大学入試に向けた生徒の学力向上を第一に企画・実施する。	B	B		学習支援ツール等を用いて生徒の自走力向上を目指すため、個人の定期的な学習状況の確認を進路指導課が中心となって行う。放課後の時間を活用し、面接・小論文対策講座や、難関大学対策講座などを充実させ「個別最適な学び」を実現する。
		外部模試の分析会や課外授業満足度アンケートを行い、各教科にフィードバックする。	B			

キャリア教育課	「総合的な探究の時間」における様々な学習プログラムを持続的に発展させ、高い志と実践力を持つ生徒を育成する。	「ProjectＣ・Ｇ・Ｖ」が、より持続可能な学習プログラムとなるために、各行程の工夫や見直し、民間企業のプラットフォームの活用を行い、学校内外からのフィードバックを(ＦＢ)受ける。	A	B	B	「ProjectＣ・Ｇ・Ｖ」の持続可能化の取り組みは鋭意行った。筑紫野市と連携し、校外からのフィードバックも受けた。次年度は「ProjectＣ・Ｇ・Ｖ」の見直しと、学習支援ツールを活用するなどして、個別の探究活動の一層の充実を図っていきたい。
		Classi等を活用し、生徒の学びの履歴を記録･蓄積させ、多様な入試方式から、自らの個性や活動実績を生かして進路を検討できるようにする。	B			
	校外でも、卒業後も主体的に学び続ける「自走」する力を強化し、社会の変化に対応して生き抜く生徒を育成する。	佐賀大研修･筑紫アカデミックツアー、ＯＢ・ＯＧ座談会、社会人講演会等をとおして、生徒が自己のキャリア形成に興味･関心を持てるように促す。	A	B		生徒の感想・アンケートなどから、各行事は有意義なものとなったと考える。国際交流担当者(進路指導課)の奮闘によって３つの大きな海外研修を実施(３月予定)することができた。ボランティア募集も徐々に増えているので積極参加を促したい。
		Classi･校内掲示板･クラス掲示を活用し、海外語学研修を含む校外研修や、校外での様々な体験的活動に関する情報を発信し、校外での学びを充実させる。	B			
研 修 図 書 課	生徒の主体性を育むための授業改善を推進する。	全ての教員が一人一台端末を有効活用し、生徒の個別最適な学びによって主体性を育むための研修を行う。	B	A	A	研究授業において１人１台端末を活用した個別最適な学び、協働的な学びを実践し、その内容を共有することができた。今後、活用の場面が増えることによるネットワークへの負荷の増加が懸念されるので、情報管理課と協力して環境を整えていきたい。
		相互授業参観や研究授業、研修内容などを電子データ化して共有する。	A			
	生徒の読書活動を推進する。	作品懸賞に積極的に参加し、書物や文字に関する意識を高める。	A	A		1、2年生で９つのコンクールに応募し、多数の生徒が受賞した。今後も積極的に取り組ませたい。電子書籍利活用のＩＤを全生徒に配布することが出来た。継続実施されれば来年度も参加し、利用を促したい。
		県立図書館の電子書籍を利用し、読書活動を推進する。	A			
情 報 管 理 課	GIGAスクールにおけるICT機器の効果的な活用	ICT機器を授業等の教育活動で効果的に活用できるよう、環境整備を滞りなく行う。	A	A	A	業務の効率化や授業改善を目的に生成AI（ChatGPT）を導入した。今後は活用事例集の作成、研究授業の実施等により、発展させていく。また、生徒NWの通信容量拡張を実現し、教育活動のさらなる充実を図る。
		ICT支援員と連携し、ICT機器の効果的な活用の推進を目的とした職員研修を実施する。	A			
	メディアを活用した情報の発信	広報課と連携し、学校ホームページの更新を継続的に行い、本校の活動を発信する。	B	B		eメッセージ（有料のサービス）については、Classiや学校HPの更新頻度の向上、インスタグラムによる情報発信の充実により、利用を停止した。今後も有限な予算を最適に活用し、教育活動の充実を図りたい。
		eメッセージの登録者を適宜把握し、Classiとともに情報発信の有益なツールとして活用する。	B			
１ 年	高校生活の基礎基本の確立	筑紫Basicにより学校生活の基礎基本を身に付けさせ、その後も継続して規範意識、帰属意識を高めて高校生生活への円滑な移行を図る支援、指導を行う。	A	A	A	筑紫Basicや文化祭、体育大会などの学校行事を通し、筑紫高校生として学校生活を送る基礎を身に付けることができた。生徒会活動に積極的な生徒が多く、次年度は学校行事へ参画する意識をさらに高めていく。
		筑紫高校が行ってきた普遍的な教育理念を継承しつつ、多様性を尊重し、現代に求められる主体的、協働的に学ぶ姿勢を全ての教育活動を通して身に付けさせる。	A			
	将来を見据えた学習習慣の確立	総合的な探究の時間や内外の各種研修機会を積極的に活用することにより生徒自身が自己の将来像を見据えるためのキャリア教育の充実を図る。	A	A		語学研修などの校内・校外における研修に多くの生徒が参加し学習意欲を向上させた。次年度は計画的に学習する自走力の養成を目指し、キャリア教育の充実や手帳の活用などを通し、将来的な見通しを立てる力を向上させる。
		全ての教育活動を通して社会的課題への探究心を育成し、学問を深めることや上級学校へ進学することの意義を見出す進路学習を充実させることにより、学習面において自走できる生徒の育成を行う。	B			
２ 年	中核学年としての自覚を持ち、誠実に熱意をもって何事にも取り組む態度の育成	「筑紫の基本５箇条」を通じて確かな自律心を育成する。日ごろの授業や探究活動の中で生徒が主体的に考え行動する場面を増やし、コロナ禍から脱却した学校生活に意欲的に取り組ませる。	A	A	A	特に修学旅行では学年としての行動を想像し、自らの行動を判断する場面が多く作れた。次年度はさらに学校のリーダーという立場を自覚させ、日々の生活や学校行事、部活動で、自律心や調整力を発揮させる。
		学校行事（特に修学旅行）や部活動に目標をもって臨ませ、自己肯定感と学年・学校への帰属意識を高められるような企画を生徒主体となって立案できるように導く。	A			
	進路目標の明確化とその実現に向けて努力を継続する力の育成	毎日の学習時間を「見える化」し、考査や模試の振り返りを習慣化して積極的に課外や探究活動に臨ませる。偏差値６０以上４０名、偏差値５０以上２００名を目標とする。	B	A		学年全体として一時的な学習の変化は見られるものの、それが継続的に学ぶ習慣につながっていないため、次年度は一人一人が学習の量と質にこだわり、進路実現を達成できるよう細やかな学習指導、進路指導を実施する。
		朝のビッグバンでの情報発信、放課後を利用した探究活動、外部講師を招いた講演会などを通じて、質の高い情報に触れさせ、広い視野で自らの進路を選択できるよう支援する。	A			
３ 年	学校のリーダーとして部活動や学校行事の完遂、そして後輩への継承	生徒会や部活動生などを中心として、リーダー・フォロワーの両方ができる最上級学年として、結果にもこだわる後ろ姿で後輩を引っ張り正しく導くことができるよう助言する。	A	A	A	部活動や学校行事を通して、最上級学年としての後ろ姿を後輩に継承することができた。見事にリーダー・フォロワーの両方ができる生徒に成長した。生徒会の活躍が目立ったが、その他からもリーダーがでるような体制が必要であった。
		あらゆる学習活動の場面で、互いに律することができる質の高い人間関係作りの構築を継続し、最後には見えない手をつないで力強く卒業の日を迎えられるよう見守り支援する。	A			
	３年間の集大成として、個々の第一志望実現に向けた愚直な努力・考動と挑戦	基本的生活習慣を崩さず、「筑紫の五箇条」を今後も大切にし、学校と家庭での学習の質を向上できるよう、朝のビッグバンを活用した面談やタブレット活用を継続する。	A	A		学年集会や希望制講座(スタディクラブ)を通して生徒個々に応じた細やかな進路指導ができた。第一志望の進路実現にむけて、最後までこだわり挑戦する生徒を育成するためには、3年間の高校生活での交流で縦横のつながりを構築することが大切である。
		各分掌と連携することで進路実現に向けた環境整備を行い、生徒の第一志望合格を実現し、９クラスでも国公立大学合格者100名以上、難関大学５名以上の合格を目指す。	A			
事 務 部	学校教育方針に沿った事務室運営の推進。事務処理の効率化と相互チェック体制の構築。	チェック機能を働かせた事務処理を推進する。本年度から始まる大規模改修工事を円滑に進めるとともに、生徒・職員の安全を第一に修繕等の対応を行い、改修工事における必要に応じた設備の更新を要求していく。	A	A	A	事務処理と大規模改修を円滑に進めることができた。大規模改修に関する情報を職員間で共有するとともに、安全安心な学校づくりを推進する。